

教科等横断的な指導の実践

～ 原子力発電所の事故によって被害を受けた地域の今から ～

(1) はじめに

学習指導要領では「現代的な諸課題に対応して求められる資質・能力を、教科等横断的な視点で育成していく」と述べられています。生徒や学校、地域の実態に応じたカリキュラム・マネジメントを学校全体で推進していく中で、総合的な学習の時間「飯館村の過去・現在を知り、未来を創造する」の学習と、放射線教育「放射線の基礎知識と、原発事故からの復興に携わる人・もの」の学習、中学校3年理科「科学技術と人間～エネルギー資源の利用～」の学習を関連させた授業を構想することができると考え、実践しました。

(2) 授業実践

総合的な学習の時間

【第1学年での学習】
(インタビュー、新聞作成)

- ・ 原発事故時の状況
- ・ 全村避難で村を離れるときの思い
- ・ 今、思うこと

【第2学年での学習】
(職場体験、村で働く人へのインタビュー、職業人図鑑作成)

- ・ 村で働く理由
- ・ これからの村へ思うこと

【第3学年での学習】
(理想の村の創造、アイデアの提案)

- ・ 村の効果的なPR方法
- ・ 伝統食の発信
- ・ 観光施設、イベントの提案



放射線教育

【檜葉町遠隔技術開発センター】

- ・ 廃炉に向けての様々な技術見学
- ・ ロボット操作体験

【特定廃棄物立情報館リプルンふくしま】

- ・ 放射線の基礎知識
- ・ 廃棄物処理の方法

・ 廃炉に向けてたくさんの人やもの関わっていることが分かりました。

・ 放射線から身を守る方法が分かりました。

・ 飯館村民や自分の家族がもつ、原発に対する考えはどうすればよいか？

・ 自分は、今まで原発の問題をどのように考えていたのか？

理科

- ・ 環境問題と、それによって起こる身近な影響
- ・ 様々な発電方法の長所と短所
- ・ 根拠となるデータの収集と分析

・ 原子力発電にも長所がある。

・ 事故被害が甚大である。

・ 再生可能エネルギーとうまく組み合わせることはできないかな？

【本時の課題】

環境を守りながらエネルギー資源を安定的に利用するには、どうすればよいだろうか？

【生徒の姿から】

◎ 生徒一人一人が課題を解決するために、総合的な学習の時間や放射線教育、理科で学んだことを生かし、多面的な視点に立って根拠をもとに表現することができました。

【生徒の考えた「これからの発電方法」の一例】

私が考える「これからの発電方法」

50%	15%	10%	10%
水力発電	風力発電	太陽光発電	原子力発電

- ・ 水力発電は、土地が必要で短所もあるけど、コストがかからなかったり、エネルギー交換効率が高かったりして長所の方が多いと思ったから。
- ・ 火力と原子力は長所や短所が同じくらいだと思ったから。
- ・ 無くならないものがないと思ったから、原子力や火力よりも再生可能エネルギーを多くした。